

2040 年に向けた 西脇市の姿についての提言書



平成 28 年 2 月



西脇市若手職員有志

関西学院大学都市研究会

目次

1	提言に当たって	… 3
2	西脇市の現状と課題	… 4
3	分野別提言	
	I まち	… 5
	II ひと	… 9
	III しごと	…12
4	まとめ	…14
5	構成メンバー	…15

1 提言に当たって

本提言書は、西脇市若手職員有志とかねてから連携を続ける関西学院大学都市研究会によるものです。これからの西脇市を担う若手職員の理想と、学生による外部視点からの柔軟な発想を取り入れています。

2040年の西脇市が「市民が主役！地域が主体！次世代につなぐ ふるさとの創造」といった目標を実現するために、「まち」「ひと」「しごと」の3分野において、それぞれが連携して西脇市を盛り上げていくための方策をここに提言します。

平成28年2月

西脇市若手職員有志・関西学院大学都市研究会 一同

2 西脇市の現状と課題

西脇市は、阪神間から車で約1時間半の距離に位置しており、中心を国道175号が縦断する利便性の高い土地です。緑豊かな自然に囲まれ、恵まれた清流のもと基幹産業である織物業が発展しました。

現在、国内では人口減少、少子高齢化に対する警鐘が鳴らされていますが、西脇市も例外ではありません。高齢化、過疎化による生産年齢人口の減少に加え、進学や就職、結婚などによる若年層の市外への流出、子どもの減少などが問題となっています。

私たちは「まち」「ひと」「しごと」の3分野に関して、以下の課題があると考えます。

《まち》

まちづくり市民アンケートにおいて、住民自治を進めていきたいという意見があります。まちづくりは行政主体よりも住民主体の方が地域の実態に合った方向で進めていけることから、住民主体のまちづくりが必要です。そのためには地域の一体感を高める必要があり、そういった場の創造が求められます。

《ひと》

少子化による児童、生徒数の減少は、西脇市の活力の維持に当たって重要な課題であり、継続的に対策をとる必要があります。現状のまま少子化が進むと、学校の統廃合を進めざるを得ないほか、地域全体の活力が失われていきます。そのため、子どもを産みたい、育てたいと思える環境の整備が必要となります。

《しごと》

市の基幹産業である播州織を中心とした市内経済の低迷や、人口減少による市内の労働力不足が問題となっています。これらを解決するために、生産年齢人口の減少や高齢化を考慮し、いま働いている人だけではなく、女性や高齢者が活躍できる就労環境を整えることが求められています。また、誰もが自分に合った働き方を選択できる環境をつくることも必要です。

これらの課題に加え、市全体で抱えている空き地・空き家問題の打開策や公共財産の有効活用に関する方策も検討する必要があります。今、市民一人ひとりが西脇市を支える環境づくりが求められています。

3 分野別提言

I まち

人と人がつながりを強化できる小さな拠点づくり

《課題》

少子高齢化や地域の人口格差、交通の便の悪さなどによって住民同士のつながりが希薄化していることが課題として挙げられます。住民が団結するためには、地域交流や暮らしを支える場となる小さな拠点の形成と活用が必要です。

そこで、「人と人が出会う」をコンセプトに、市内4中学校区ごとに地区の特性を活かした小さな拠点の形成を提案します。

①西脇中学校区において仕事に強いまちづくりを展開します

【ねらい】

現在、空き施設となっている旧西脇市図書館を小さな拠点とします。現在、男女共同参画センターが中心となって女性の就業支援が行われていますが、さらに支援の充実を図ることで、女性の働く意欲を高めるとともに、女性が働きやすい環境づくりを行います。

【事業・取組】

- ・旧西脇市図書館を拠点とした、働きたい女性が主体的に学習、交流、情報発信できる場の整備
- ・空き家の把握及び空き家バンクの整備
- ・空き家に関する助成制度の創設（例：空き家家財道具等処分費助成事業、空き家・空き店舗利用支援事業）
- ・にしわき創業塾などの創業支援の継続、発展
- ・男女共同参画センター主催による女性就業支援の新規支援（例：空き家利用希望者の募集、女性起業家養成塾など）

【効果】

空き家の利活用を図るとともに、小さな店舗や教室を持ちたい女性が起業しやすい環境が整備されます。また、市内に女性の働き手が増加することで、まちの経済活動が活性化されます。

②西脇東中学校区において田舎暮らしができるまちづくりを展開します

【ねらい】

コミセン比也野を拠点としたまちづくりを展開します。他学校区の先に行く住民自治を基盤に、東中学校区が持つのどかな田舎らしい魅力を活かしたまちづくりを展開することにより、さらなる付加価値を創造します。

【事業・取組】

- ・ 田園風景の維持管理
- ・ 和風住宅の新築、改築、修繕支援
- ・ 新規就農者支援（例：Iターン及びUターンによる農業従事者の育成、支援）
- ・ 新規住民に対する近隣住民によるサポート
- ・ 移動販売の継続
- ・ メディアを使った田舎暮らしのPR
- ・ 開業医の育成支援、誘致
- ・ 自然と触れ合う教育活動の促進
- ・ ツアーの企画（例：ホテルやへそ祭り、たけのこ収穫時期に合わせた、気軽な旅行の企画）
- ・ コミュニティバスの週末運行
- ・ 歩行者及び自転車利用者が加古川を渡る際の安全な手段の整備（例：夜間、夕暮れに橋を利用する人へ反射材使用の呼び掛け、歩行者用橋の架橋など）
- ・ まちの玄関である比延駅の清掃、美化

【効果】

生活環境の面では、医療サービスを受けやすい環境をつくることで、移動販売の継続と併せて最低限の暮らしを支える環境が整います。公共交通サービスを拡大することにより、どの世代にとっても暮らしやすい環境を形成し、田舎暮らしにおける短所を補います。また、田舎らしい風景を維持することで見た目にもわかりやすい魅力を発信します。

人口維持の面では、Iターンと併せてUターンしやすい環境をつくることで流出人口の抑制をねらいます。また、田舎暮らしの魅力を知ってもらうことにより、市内だけでなく市外からも人を呼び込みます。

住民自治をハード面から補助することでより伸展させ、地域の一体感を高めるとともにあらゆる世代にとって暮らしやすい環境が形成されます。

③西脇南中学校区において学びに特化したまちづくりを展開します

【ねらい】

野村・重春地区はMiraie、芳田地区は空き家を小さな拠点とします。野村・重春地区は西脇市内で特に子育て世代が多く暮らす地区であり、加えて教育に関心のある住民が多くいます。学びの中心として体験学習ができる環境を整備することで、住民の教育に対する関心をより高め、また市外から人を呼び込むきっかけとします。

また、芳田地区では空き家を拠点化することで、点在した住宅に暮らす地域住民が集うことのできる場を整備し、地域の結びつきをより強化します。

【事業・取組】

- ・芳田地区における住民主体の小さな拠点の設置
- ・拠点に向かうための交通機関の整備（例：コミュニティバスの運行）
- ・空き家の把握と空き家バンクの整備
- ・地域住民と一緒に学習する機会の提供
- ・国際交流の場の提供（例：市内在住外国人によるMiraieでの外国語教室）
- ・読書通帳に関連した新規学習事業の創設
- ・市内全域の子どもたちが様々な学習を受けられることができる環境の整備
- ・児童生徒と地域住民による環境体験事業（農業・林業）

【効果】

教育を通して、子どもを中心としたコミュニティ拠点が形成されます。

また、体験学習が可能な環境が整備されることで、他学校区や市外の子どもによるMiraieの利用率が向上し、芳田地区では豊かな自然を利用した社会教育の機会が生まれます。

④黒田庄中学校区において災害に強いまちづくりを展開します

【ねらい】

黒っこプラザを小さな拠点とします。黒田庄中学校区では、特に福地地区における台風時期の浸水問題が課題となっていますが、市の災害対策とともに地元主体の事前防災体制が築かれています。この事前防災体制をより強化し、地域の一体感と防災意識を高めます。

【事業・取組】

- ・防災活動を通じたコミュニティの形成
- ・小さな拠点への交通の利便性の確保（例：コミュニティバスの継続、強化、促進）
- ・住民の自発的な災害対策へのサポート
- ・台風時期の浸水に限らないタイムライン防災の徹底
- ・他学校区の防災モデル化

【効果】

他学校区の防災モデルケースとして防災の情報発信を行うことで、市内全域に防災意識が高まり、ゆくゆくは西脇市全体が防災に強いまちとなります。また、地域一丸となって災害に備えることで、自助共助が定着し促進されることが期待されます。

Ⅱ ひと

3世代が交流し、結婚・出産・子育てのしやすいまちづくり

《課題》

少子高齢化が進む中、核家族及び単身世帯が増加する傾向にあります。8小学校区のうち、野村・重春地区については若年層世帯の流入により、児童数が比較的多くなっていますが、それ以外の地区では減少傾向にあります。

このような状況が今後も続くと、25年後はさらに少子高齢化及び生産年齢人口の減少が進行することが懸念されます。出生数の低下が今後も進むと、学校の統廃合が起これ、地域のコミュニティが希薄化し、住民の郷土愛が薄れてしまうことも危惧されます。

そこで、子育て拠点の場である Miraie が地域に密着した場所となる仕組みづくりが必要であると考えます。

①結婚の希望を実現できるまちづくりを提案します

【ねらい】

市内に若者を呼び込み、出会いから結婚に至るまでの支援を行う婚活事業を推進し、西脇市で結婚する男女を増やします。

また、結婚後も安心して暮らせるように新婚世帯及び3世代同居に伴う転居、改築等の支援を行うことで、住居に関する不安を解消します。

【事業・取組】

- ・西脇市に関する出会いイベント情報及び暮らしの魅力を定期的にSNSで発信
- ・30歳時に「三十路式」の開催
- ・商工会議所及び観光業界と連携した縁結びプロジェクト、西脇デートプランの企画
- ・縁結び課の創設
- ・新婚世帯への住宅取得費の助成及び家賃補助
- ・家族構成変更に伴う転居や改築費用の補助
- ・移住手続きの簡素化

- ・空き家情報の提供（例：空き家バンク）

【効果】

市外へ西脇市の魅力を発信すると同時に、三十路式を開催することで、結婚適齢期の若者をまちに呼び込みます。

そして、若者の出会いの機会を創出するだけでなく、切れ目のない支援を行うことで、結婚に結びつけるケースを増加させます。

また、結婚後の住居に関して、一時的な助成にとどまらず、ライフステージに合わせて転居や改築が必要になった際の支援を行うことで、生涯安心して暮らせるまちになります。

②妊娠・出産の希望を実現できるまちづくりを提案します

【ねらい】

子どもの数を増やすために、妊婦への支援を充実させます。現在、母子共に出産後の支援はありますが、さらに妊婦への支援の充実を図るために、妊活及び妊娠ができる環境づくりを行います。

【事業・取組】

- ・Miraie を拠点とした未来のパパママを育成する教室の実施
- ・男性が育児へ参加しやすい環境の整備（例：男性の育児休暇取得、フレックスタイム制度の推進）
- ・医療費のサポート充実（例：妊婦健診、不妊治療費補助の継続）
- ・妊娠中の交通環境の改善（例：妊婦送迎バス、タクシーチケット提供）

【効果】

安心して子育てできる環境が整備されることで、妊娠への阻害要因が減少します。それにより安心して出産することができ、将来的に出生数の増加が期待されます。

③子育てに伴う問題を解決し、「産みたい」と思えるまちづくりを提案します

【ねらい】

少子高齢化や核家族が増加する中、家族だけでなく住民・地域全体が協働し、子どもを育てていくことで、地域の人をつながり为核心とした「産みたい、育てたい」と思えるまちを目指します。

【事業・取組】

- ・無料育児用品レンタル事業（不要になった育児用品の再利用）
- ・健康課と図書館が連携したブックスタート事業（出産時に絵本をプレゼントし、読み聞かせの効果や方法についてアドバイスを行う）
- ・Miraieでの育児に関する教室及び講習会の開催（例：地産地消のベビーフード教室、出産後ヨガ教室、ワークライフバランス講演会など）
- ・小中学校における放課後学習の充実（例：寺子屋事業）
- ・図書館を中心に読み聞かせを行うママサークルの設立
- ・子育て中のママによる、親子で参加できるイベントの企画及び相談事業・広報事業の実施
- ・旧西脇市図書館を憩いのカフェ、サロンなどで利活用
- ・シニア世代による子育てボランティア事業（例：昔遊び教室、料理教室及び子育ての経験を活かした相談事業）
- ・産休、育休取得の徹底及び勤務時間短縮制度の推進
- ・学ぶ力や郷土愛を育成するキャリア教育プログラムの構築

【効果】

まずはMiraieを子育て拠点とすることで、家族、地区、地域全体へと交流の輪が広がり、赤ちゃんから高齢者までの3世代間交流が実現します。それにより、地域全体で子どもを育てていく意識が向上し、「産みたい」と思えるまちになります。

Ⅲ しごと

播州織の復活を中心としたまちの活性化と自分に合った多様な働き方を選択できる環境づくり

《課題》

市内経済の低迷、人口減少社会による労働力不足、働くことに対する価値観の多様化などが進む中、基幹産業である播州織の復活を起爆剤に、再び西脇市に活力を取り戻し、誰もが自分に合った働き方を選択できる環境づくりが求められます。

①播州織産業の復活を中心としたまちの活性化を目指します

【ねらい】

播州織産業の復活に向けた支援と環境づくりを行います。播州織の最終製品化や「西脇ならではのものづくり＝西脇ブランド」の確立によりブランド力の強化を図るとともに、播州織業界で就業・起業しやすい環境づくりを行います。

【事業・取組】

- ・デザイナーの招聘、育成
- ・播州織産業の発展、発信を目指す企業への支援
- ・播州織機器や空き工場の共有
- ・西脇の自然や伝統を素材へ活かした製品作りによるブランド力の強化（例：市内での綿花の栽培、純西脇産の播州織製品の開発）
- ・高付加価値の創出（異業種間による商品開発の推進）
- ・播州織教育の推進（例：家庭科の裁縫の授業で播州織を使用）
- ・姉妹都市であるレントン市と連携した世界への播州織認知度拡大
- ・他地域の地場産業と連携した、海外での日本ものづくり市の開催

【効果】

播州織デザイナーの招聘や最終製品化の奨励により、播州織産地が活性化され、ブランド力の強化や新たな雇用に繋がります。その結果、外に開かれた産地となり、販路拡大や移住希望者の増加が期待されます。

②市民一人ひとりが自分に合った働き方を選択できるまちを目指します

【ねらい】

多様な働き方を実現するための施設作りや制度の推進を行います。市内の空き家や公共施設を有効活用した働く場所の整備や産休、育休等の推進により、誰もが時間や場所に拘束されることなく働くことのできるまちづくりを行います。

また、地域で求められるサービスをビジネスへと転換していくことで、人と人とのつながりが強化された、持続可能なまちづくりを目指します。

【事業・取組】

- ・シェアオフィスやコワーキングスペースの整備
- ・空き地や空き家、公共施設（空き校舎、公園等）の活用
- ・企業に対する産休、育休、介護休暇等の推進
- ・雇用形態に捉われない保障制度の整備
- ・フレックスタイム制度の推進
- ・コミュニティビジネスの活性化
- ・行政サービスの民間委託（例：Miraie 内にカフェや書店をオープンし図書館業務を委託）

【効果】

働く場所の整備を進めることで、誰もが気軽に事業を始めることが可能になります。多種多様な才能や技術が集まることで、新たな付加価値の創出やビジネスチャンスにも繋がります。また、産休、育休等の推進により貴重な労働力である女性の就労を促進できるとともに、様々な働き方が浸透することで、ワークライフバランスが確立されます。

地域の困りごとはビジネスに転換することにより、雇用が生まれます。その結果、自立した持続可能なまちづくりが実現され、自己実現の場を求めた人々が西脇に集い、さらなる活性化が促されます。

4 まとめ

今後ますます加速化する人口減少、少子高齢化に伴い、労働力不足、社会保障制度の崩壊、人と人の繋がり希薄化など、地域存続に向けた課題は山積みです。多くの課題に直面した今だからこそ、人と人とのつながりの大切さを市民自らが再確認し、市民全体が主役となった、未来あるまちづくりが求められます。

今回、私たちが提言した3つのまちづくり【Ⅰ 人と人がつながりを強化できる小さな拠点づくり】【Ⅱ 3世代が交流し、結婚・出産・子育てのしやすいまちづくり】【Ⅲ 播州織の復活を中心としたまちの活性化と自分に合った多様な働き方を選択できる環境づくり】を通して、人とひととのつながりを基盤とした、市民による活発な地域活動や経済活動が促されます。そして、最終的に目指すのは、市民一人ひとりが活躍し、誰もがいきいきと暮らせる西脇市をつくることです。

提言に示したこれらの内容が、これからのまちづくりにおいて活かされ、総合計画に掲げる「市民が主役！地域が主体！次世代につなぐ ふるさとの創造」を目標に、西脇市がさらなる発展を遂げることを望みます。

5 構成メンバー

《西脇市若手職員有志》

工務課	佐々木	真悠
保険医療課	高瀬	和紗
税務課	遠藤	香里
防災安全課	藤原	好伸
税務課	丸岡	あい
健康課	青木	萌香
土木課	村上	慶如
農林振興課	住尾	旭美
学校教育課	高見	真子
生涯学習課図書館	吉田	智美

《関西学院大学都市研究会》

柳原	章吾
崎山	二千翔
金澤	早紀子
岡田	玲奈
小野寺	七海
朝井	悠介
田中	翔子
大岩	利佳子
西川	真央